

## 本の紹介

# 臨床 宗教師 の 伴死者 の 床

藤山みどり

多死社会に突入したこの国で、  
「死の伴走者」として活動する人びとがいる。  
死の不安と別れの悲しみに直面する  
当事者を支える臨床宗教師の  
誕生と活動の記録

臨床宗教師—死の伴走者  
藤山みどり 著  
高文研 2200円+税

死をより良く迎えるというテーマは高齢者が増え、わたしたちの身近になりました。

そんな時代になり宗教家が医療機関に配属され患者や家族に寄り添う時代になって来ました。

様々な死が迫った人々が受け止められない「苦悩」を受け止める宗教家はこれまでの医療に欠けていたものを埋めてくれる貴重な人材ではないでしょうか？

本書は臨床宗教師の誕生の経過や活動の記録をまとめたものです。

「神を信じるものにも信じないものにも」死は等しく訪れます。

その時にわたしたちを受け容れる人の存在はありがたいものではありませんか？

\*\*高文研の書籍紹介\*\*

超高齢化社会となった日本。2005年には死亡数が出生数を上回り、2013年には65歳以上の高齢者が4人に1人となりました。

いかに死をより良く迎えるか——。

この切実な問いを当事者や遺族とともに受けとめ、不安や悲嘆のケアを行う臨床宗教師が注目されています。

東日本大震災で、突然の死別に直面した遺族たちをケアする宗教者たちが被災地を奔走しました。

多死社会を迎えたこの国で、死を全うするための「伴走者」として医療従事者だけでなく、宗教的ケアを行う臨床宗教師の誕生と活動の記録です。

どんなに身体が不自由になっても  
おびといてまでも「この街で生きたい」

をかなえたい

きょうと福祉倶楽部は大山崎町の前川 光町長に1月28日に「合理的配慮を要する高齢者、障がい者へのゴミ収集事業への要望書」を提出しました。

大山崎町では資源ゴミは収集日当日に住民が定められた集積所に運ばなくてはなりません。

重たいビンやかさばるペットボトルは身体をたくさんもって運ぶ事は身体が不自由な高齢者や障がい者ではとても大変な作業です。

ともすれば運びことで転倒を起こす危険もあると思います。そのうえ早朝はホームヘルパーも不足していますのでヘルパーが支援出来る保障もありません。

そのような状況下、大山崎町社会福祉協議会ではボランティアによる収集支援はありますがボランティアがいない地域もあります。そしてそのボランティアは善意による支援ですから、恒常的に利用を続けられる保障もありません。

この時間帯にゴミ出しが困難な高齢者世帯に町が特別な配慮をしてくださればどんなに多くの高齢者や障がい者が暮らしやすくなるのでしょうか。

大山崎町のお隣のわたしたちが事務所を構える長岡京市では普通ゴミのゴミ出し支援へが始まり、自宅前にゴミを出せば衛生課の職員さんが安否確認を兼ねて週一回の収集されます。

ぜひ大山崎町でも暮らしを支える温かい支援を実現してほしいものです



有限会社 おとくに福祉研究所  
きょうと福祉倶楽部

〒617-0824

長岡京市天神4丁目7-12 ハイッ東台101号

TEL075-958-2560 FAX 075-957-2808

E-mail info@fukushi-club.com